



パパ、ママ、たばこを吸わないで!

たばこが喫煙者本人だけでなく、周りで煙を吸っている人たちにも害をあたえるということは、ご存知の方も多いと思います。

このたばこが、赤ちゃんの成長にどのような影響をあたえるか、パパ、ママはもちろん、それ以外の方も、もう一度考えてみましょう。

○妊娠中の胎児への影響

タバコに含まれる有害物質、ニコチンや一酸化炭素が母体に吸収されることによって、胎盤と胎児の低酸素状態を招き、以下の出産トラブルへとつながる可能性が高くなります。

- ・早産、流産、低出生体重児(2,500グラム未満)の原因に
- ・前置胎盤や胎盤早期剥離の原因に
- ・その他早期破水や先天性異常などの原因に



ママが吸わなくても、周りの人が吸えば同じことが言えます。

○出産後の赤ちゃんへの影響

たばこの煙には有害物質が高い濃度で含まれています。こどもや赤ちゃんは大人に比べ、呼吸器や中枢神経の発達が未熟であるため、さらに身体への影響を受けやすく、以下の原因へとつながる可能性が高くなります。

- ・乳幼児突然死症候群(※)の原因に
- ・気管支喘息、気管支炎、アレルギー、肺炎、中耳炎の原因に
- ・たばこの誤飲による事故(誤飲事故第1位)の原因に
- ・知能発達低下の恐れがあります。
- ・母乳はニコチンが凝縮。赤ちゃんに不眠、下痢、嘔吐などのニコチン中毒症状が出ることもあります。



家の外で吸っていても、煙の中の有害物質は吐息に含まれ、衣服や髪の毛にも付着します。

※乳幼児突然死症候群(SIDS)

それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく眠っている間に突然死亡してしまう病気。両親ともたばこを吸わない場合に比べて、両親とも吸う場合は4.7倍、危険性が高くなります。

たばこの影響はとても大きなものです。元気な赤ちゃんが生まれてくる日を安心して迎え、お子さんのすこやかな成長を見守るためにも、禁煙をお勧めします。パパ・ママだけでなく、その周りの方ももう一度、たばこの害について考えてみましょう。



禁煙したいと考えている方、禁煙について相談したい方には、町の保健師がアドバイスします。下記の問い合わせ先にご連絡ください。

問合せ 健康福祉課(常北保健福祉センター内) ☎029-240-6550